

“富岡風景づくりガイド”作成始動!!

(富岡市景観形成ガイドライン)

昨年、富岡市の景観づくりの骨格を示した「富岡市景観計画」が施行、新たな富岡の景観づくりがスタートしました。去る10月14日から2年間にわたって開催されるワークショップ(以下「WS」)では、「富岡市ならではの景観」=「富岡風景」をより詳細に調査し、モデル地区での方針検討、ガイドラインの作成、プロジェクトの検討・実践などを行っていく予定です。

「富岡風景づくり通信」では、WSの様子などを報告していきます。

第1回 ワークショップ開催!

市民・専門家が富岡の景観・風景への想いを語りました。

第1回WSは、10月14日、まちかど遊YOUプラザで、開催されました。会場に集まったWS参加者は、公募市民、調査対象地区住民、市景観アドバイザー、市職員などの計31名。

まずは、市から「富岡製糸場の世界遺産登録を見据えつつ、実効性のあるガイドラインの作成をお願いします。」という挨拶と、風景づくりの考え方について説明がありました。市景観アドバイザーの先生方からは、市の文化的景観の意義や地域の活性化について話がありました。調査対象地区(モデル地区)については、それぞれの地区で活動を行っているWS参加者から詳細な紹介があり、参加者相互の認識を共有しました。WSの最後には、参加者の自己紹介を行い、各々の富岡の景観・風景への想いを語り、参加者相互の理解を深める貴重な時間となりました。

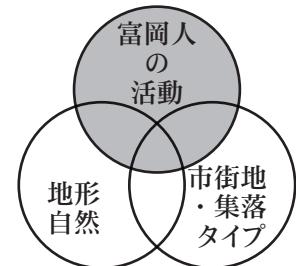
次回のWSは、参加者を3班に分け、3つの調査対象地区のまち歩き(現地調査)を行う予定です。日程は、下記のとおりですので、市民の皆さんのご協力をお願いします。

■第2回WS(まち歩き)

- ・日時：平成22年11月28日(日) 午後1時～
- ・調査対象地区(モデル地区)：
特定区域(まちなか)、小野地区、妙義地区(中里・高田地区)

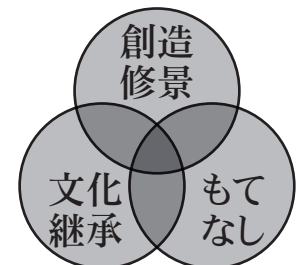
「富岡風景」づくりにあたって

富岡風景を構成する要素



そこでどのような活動が
営まれているかが大切

空間と活動(営み)をあわせて
考えることで実現したいこと



【裏面】

第1回WSで話し合われた
内容を紹介します。

第 1 回 WS で話し合われた主な内容

景観アドバイザーより

齋藤氏 (建築士会)

- ・ 建築士会が中心となり、まちなかで、約 90 棟の歴史的建造物の調査を行い、多くの蔵があることが分かったので、活用していけるとよい。



戸所教授

戸所教授 (高崎経済大学)

- ・ 富岡製糸場や貫前神社などの重要文化財に加えて、日常生活空間も含めた文化的景観が大切で、それが観光資源にもなる。住み続けたいまちづくりが観光まちづくりでもある。
- ・ 世界遺産は建物 1 つだけではなく、地域を登録するもの。蚕糸産業関連のネットワークが必要。養蚕農家の多い小野地区は、群馬県の文化的景観の一翼を担うものとして再評価すべき。

宮崎教授 (前橋工科大学)

- ・ 長続きするまちには、必然性がある。ガイドラインをつくる必然性=「いかに快適に利便性をもって生活するか」を考えるべき。生活様式がそのまま風景となるのが大切。
- ・ 商業的になりすぎると本質的でないものが入ってくる。地域の文化を創造・継承していくことが大切。
- ・ 神社や道祖神など、各集落には埋もれた資源がたくさんある。また、中心市街地と集落をどうつなぐのかも課題。

WS 参加者による調査対象地区 (モデル地区) の紹介

① 特定区域 (まちなか)

- ・ 中心市街地は、人口が減少し、建物の更新もされず、廃屋や空地も増えてきている。このままでは、まちがどうなってしまうかが心配。
- ・ 建物だけではなく、それにまつわる歴史や記憶をとどめておかなければならないと思っている。げんき塾では、今年は昔の聞き取り調査をすることを予定。

② 小野地区

- ・ ぐんま百名山の崇台山で活動を行っている。崇台山は地域の人々が初日の出で登ったりする大切な山。前は、景色が見えなかったが、樹木の整理等を地域で行い、眺望がよくなった。
- ・ 十数年前の環境基本計画の策定時の WS をきっかけに、かぶら里山保全会として活動している。この WS もそのような活動のきっかけになるとよい。
- ・ 小野をはじめ、昔は、養蚕と、しいたけ、蒟蒻の栽培が盛んだったが、今は後継者がいない。

③ 妙義地区 (中里・高田地区)

- ・ 中里・高田地区は、高田川が走り、集落には養蚕民家や檜ぐね、玉石の石垣などの資源が多く残っている。八木連の昔ながらの農家家屋や妙義小学校前の妙義山への眺望なども素晴らしい。
- ・ 潤いと安らぎのある地域づくりをして、富岡の魅力の後世に伝えていかななくてはならない。



WS 参加者の主な自己紹介コメント

・ 景観だけで、地元と語るの難しい。どうやって、このまちの価値を高めていくか。彼岸花も、まわりの草刈をするときれいになった。

・ うどん屋の建物を、昔風にして、店先にとうもろこしや大根を干してみた。観光客が指を刺して興味を示してくれる。地域外のお客さんの話を聞くと、どんなものにも興味があるかを知ることができる。

・ 額部は、専業農家が少なく、50 代の人々が最年少で後継者がいない状態。畑が荒れているので、景観を考えると空いている農地を活用したい。

・ 全国には、景観はきれいなのに、右肩下がりの地域が多い。マニュアル化されたもてなしが一因。
・ 住む人の心を磨く、それから、人工物自然を作っていく、守っていく。
・ 富岡を感じたいという人が訪れるまちにしたい。

・ 例えば、蔵風に建てる時に、どのデザインにするか悩む。となりとの関係性を見たりして、それを解決していく建築家などの専門家の役割が大切では。

・ 古くていいものでも、観光客が来るとは限らない。
・ 富岡で、お金がかからない資源は、山のある風景。妙義、荒船など、富岡市内から見ることができる。

・ 嫁いだ娘と、赤羽祭りに行ったが、富岡のお祭りの方が、凄かった。外部の目で見ると、富岡の良さを再発見できるのでは。

・ 景観資源調査隊でアイデアにあがった景観 100 選づくりで、市民による宝探しから始め、地域間連携、観光や世界遺産との連携で、自分の生業が潤うといった、地域づくりの成功例をつくりたい。
・ 世界遺産が、市民の恩恵につながらなくては。